

第6学年 国語科学習指導案

日時 平成22年10月7日(木) 5校時
児童 男7名 女10名 計17名
指導者 細田 一仁

1 単元名 『筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう』

2 教材名 「平和のとりでを築く」

3 単元について

(1) 指導事項について

本単元の主たる指導事項は、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんりすること」である。この力を育てていくためには、「書かれていることを整理しながら読むこと」「筆者の考えに対し、自分なりの考えを持ちながらかんりすること」などの力を育てていく必要がある。

本単元では、「事実と意見を区別しながら筆者の考えをとらえ、それに対し自分の考えをもちながらかんりすること」を目標とする。

(2) 児童の実態について

児童はこれまで、「生き物はつながりの中に」では、筆者の考えがより伝わるように工夫された文末表現、文章構成に着目しながら要旨をとらえるとともに、筆者の考えについて自分なりの考えをもつ学習をしてきた。

本単元に関わる児童の実態をみると、昨年12月に行ったCRTテストの「要約しながら内容を読み取ること」の学級得点率は62%、「文章の表現や叙述に注意し読むこと」の学級得点率は73%であった。このことから文末表現に着目して筆者の考えや伝えたいことをとらえる力はまだ十分とは言えないが、友達の発表を聞いたり話し合ったりすることは積極的に取り組むことができる。学び合いの場面では、自分の考えが広がったり深まったりしているかということについては、個の意見が全体の学び合いの場面で生かされてくるようになりつつある。

(3) 教材について

本教材は、原子爆弾によって「傷だらけ」となった物産陳列館が、多くの人々の平和を願う心によって、世界遺産「原爆ドーム」となった経緯を述べた文章である。日本人として知っておきたい事実と、それが世界の「遺産」となった意味についての筆者の考えを読み取ることができる教材である。また、それによっていかに多くの人々が、現在において「平和」を希求しているかがわかり、それについて自分なりの考えをもつことができる。

「平和のとりでを築く」は、メッセージ性の強い題名で読み手に問題意識をもたせ、分かりやすい構成（「筆者の思いー原爆ドームのたどった歴史ー世界遺産への道のりー筆者の伝えたい考え」）になっており、自分の考えを説得力あるものにするために確かな資料に基づいた説明が必要であることを明確にすることができる内容となっている。

以上のことから、本教材は、「平和」について筆者の考えを理解し、自分の意見を明確にしながらかんり学習に適した教材であると考えられる。

(4) 指導にあたって

指導にあたっては、次のように進めていく。

- ①「つかむ段階」では、事前に学習内容を知らせ、戦争や平和に関するニュース番組を試聴したり、図書や新聞をかんりしておくことによって、学習への見通しとしたい。
- ②「読み深める段階」では、原爆ドームがユネスコ世界遺産に認定されるまでどのような年月をたどってきたのかについて整理しながら事実をまとめ、世界遺産の意味と世界の人々の願いをかんり取ることができるようにする。そして読み取ったことをもとに、筆者の考えをまとめ、それに対

する自分の考えを明確にもたせたい。学び合いの中では自分の考えを発表させたり、友達の意見と比べたりしながら、自分の考えを深めることができるようにする。

③「ひろげる段階」では、平和に対する自分の考えに説得力をもたせるための資料収集を行い、自分の意見が学習発表会で伝わるように構成を考えて意見文にまとめる。

4 単元の目標

＜国語への関心・意欲・態度＞

・筆者の訴えを受けて自分なりの考えをもち、「平和」について関心をもって読もうとしている。

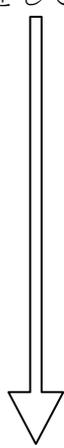
＜読む能力＞

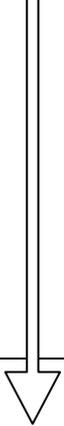
・筆者の「平和」についての考えを読み取るとともに事実と意見の関係を押さえ、「平和のとりでを築く」という題名が意味することを踏まえながら自分の考えをもって読むことができる。（読ウ）

＜言語についての知識・理解・技能＞

・事実と意見の書き分けが分かり、自分の考えを明確にするための構成の工夫に気付くことができる。
（言イ（キ））

5 指導計画と評価規準（14時間）

過程	時間	学習内容	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
つかむ	1	・単元のねらいを知り、学習の見通しをもつ。 ・本文を通読し、学習の見通しをもつ。 ・漢字と語句の練習をする。	・平和について興味をもって読もうとしている。		
	1	・本文を通読し、学習計画を立てる。 ・初発の感想を書き、学習計画を立てる。	・筆者の考えをもとに、平和について考え、単元の見通しをもとうとしている。		
	1	・意味のまとまりに分けて、文章構成をとらえる。 ・これまでの説明文学習を振り返りながら、意味のまとまりに分けて、文章構成をとらえる。		・段落の構成をとらえたり、話題提示文を見つけたりして読みの視点を理解している。	・自分の考えを明確に表現するために、事実と意見を区別をしている。
読み深	1	・「原爆ドームがたどった歴史」について叙述に即して事実を要約する。 (②～⑧段落)		・時を表すことば、原爆ドームの叙述の変化に着目し、筆者がどのような考えをもち、何を伝えたいのかを理解するために要約している。	・事実と意見の書き分けをしている。 

め る	1	<ul style="list-style-type: none"> 「世界遺産への道のり」について叙述に即して事実を要約する。(⑨～⑪段落) 原爆ドームの歴史の事実と筆者の意見の関係を押さえる。 		<ul style="list-style-type: none"> 原爆ドームが世界遺産に登録されるまでの道のりを整理し、筆者がどのような考えをもち、何を伝えたいのかを理解するために要約している。 	
	1 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の考えを読みとり、「平和のとりでを築く」についての筆者の考えを読み取る。(⑫⑬段落) 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の考えが分かる言葉に着目し、筆者の伝えたい考えを読み取ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の考えが分かる言葉に着目し、「原爆ドームは人々の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ」という筆者の考えを読み取り、書きまとめている。 	
	1	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の考えに対する自分の考えをもち、深める。 筆者の考えを読み、平和についての自分の考えをまとめる。 平和についての自分の考えを交流する。 		<ul style="list-style-type: none"> 自分の読み取った内容をもとに、自分の考えを交流し合い、平和について自分の考えを深めている。 	

自分の考えを発信しよう

過程	時間	学習内容	国語への 関心・意欲・態度	読む能力 書く能力	言語についての 知識・理解・技能
ひ ろ げ る	1	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを発信する。 発信する目的と相手、課題、方法を定める。 調べることを具体化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「平和のとりでを築く」の内容を意識しながら、「平和」に関する資料などを読もうとしている。 		
	2	<ul style="list-style-type: none"> 現在の時点で考えていることを「仮の要旨」としてまとめ、それに説得力をもたせる材料を集める。 課題について調べたり、取材をしたりして情報を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「仮の要旨」に沿った材料について調べたり、取材をしようとしている 		
	1	<ul style="list-style-type: none"> 集めた材料をもとに、「仮の要旨」を「確定した要旨」にまとめ直す。 		<ul style="list-style-type: none"> [書]集めた材料の中から必要なものを選択し、自分の意見が伝わるように組み立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事実と意見の書き分けが分かり、自分の考えを明確にするための構成の工夫に気付いている。

2	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを書きまとめる。 書きまとめたものを推敲する。 推敲したものを学級で発信する。 		<ul style="list-style-type: none"> [書]事実と意見、反対意見とそれに対する反論などを、読み手に分かるように書き分けている。 	
1	<ul style="list-style-type: none"> 学習発表会で発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 書きまとめたものを事実と意見に気を付けながら、相手に分かりやすいように伝えようとしている。 		

6 本時の指導

(1) ねらい

「平和のとりでを築く」についての筆者の考えを読み取ることができる。

(2) 授業仮説

筆者の考えが分かる言葉に着目して「平和のとりでを築く」の意味を自分の言葉で交流し合うことにより、筆者の考えをより深く読み取ることができるであろう。

(3) 展開

段階	学習内容及び活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導上の留意点 ◎…主発問 ○…補助発問 	評価（評価方法） ◎…具体の評価基準
つかむ 3分	1 学習範囲を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の考えが分かる言葉に気をつけながら読むように働きかける。（⑫、⑬を指名読み） 	
	2 本時の学習課題を把握する。 「平和のとりでを築く」とは、どういうことか考えよう。		

<p>追 究 す る 40 分</p>	<p>3 学習課題を解決する。 (1) 筆者の一番伝えたいことを話し合う。 (2) 「戦争は人の心の中で生まれるものである。」について考える。 ①一人学びをする。 ②学び合いをする。 (3) 「平和のとりでを築く」とはどのようなことかについて考える。 ①一人学びをする。 ②学び合いをする。</p> <p>4 まとめ。</p>	<p>・筆者の考えが分かる文章から筆者の平和に対する考えを確認する。 ○ユネスコ憲章の「戦争は人の心の中で生まれるものである。」とはどういう意味でしょうか。 ・「人の心の中で生まれる」に着目し、戦争は人間自身によって起こっているということを読み取ることができるようにする。 ・「戦争」を身近な「争い」と置き換えて考えさせる。 ・国連憲章引用部分を紙板書する。 ○「戦争は人の心の中で生まれるものである。」とはどういうことでしょうか。 ・意見を交流し合うことで戦争の原因についての考えを広げたり深めたりさせたい。 ・友達の見意見を聞いて自分の考えに変容があってもよいことを確認する。 ○「平和のとりでを築く」とは、どういう意味でしょうか。 ・「戦争は人の心の中で生まれるものである」について学び合ったことを生かして書かせる。 ◎「平和のとりでを築く」とは、どういう意味でしょうか。 ・友達の見意見を聞いて自分の考えに変容があってもよいことを確認する。 ・全体で意見を交流し合い、筆者の言う「平和のとりでを築く」の意味について確認する。</p>	<p>・「戦争は人の心の中で生まれるものである」という国連憲章の意味を身近な問題を例にして読み取り、交流することができたか。 (発表・ノート)</p> <p>◎「平和のとりでを築く」についての筆者の考えを読み取ることができたか。 (発表・ノート)</p>
<p>ま と め る 2 分</p>	<p>5 次時の学習について見通しをもつ。</p>	<p>・本時の自分の学び合いの成果を振り返る自己評価を行い、自分の学びや友達との学び合いに対して満足感や成就感、考えの変容に気づき、次時の学習への意欲をもつことができるようにする。 ・「平和」に対する自分の意見についての学び合いを行うことを予告する。</p>	

(4) 具体の評価規準

Aの状況の具体的姿	具体の評価規準	Cの状況への手立て
<p>学び合いの中で「戦争は人の心の中で生まれるものである」ということを身近な具体的を挙げて考え、「平和のとりでを築く」についての筆者の考えを深化させて読み取っている。</p>	<p>「平和のとりでを築く」についての筆者の考えを読み取っている。</p>	<p>「戦争は人の心の中で生まれるものである」ということを、身近な具体例として思い起こさせることにより、「平和のとりでを築く」の意味について考えるように支援する。</p>

7 板書計画

平和のとりでを築く

大牟田 稔

課題 「平和のとりでを築く」とは、
どういうことか考えよう。

⑫痛ましい真姿の原爆ドームは、原子爆弾が人間や都市にどんな惨害をもたらすかをわたしたちに無言で告げている。未来の世界で核兵器を二度と使ってはいけない、いや、核兵器はむしろ必要だと、世界の人々に警告する記念碑なのである。

⑬国連のユネスコ憲章には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」と記されている。原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。

国連のユネスコ憲章

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

おもちゃの取り合い

↓早く遊びたいというわがまま

妹とのけんか

↓妹を言うとおりにさせたい



戦争⇨人の心の中に生まれる

平和のとりでを築く

争いの心を平和のとりでによって
出さないようにすること。

原爆ドームの写真

(世界の遺産)

＜本時の指導構想＞

第6学年 単元名『筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう』

教材名「平和のとりでを築く」

1 本時の学び合いの構想

筆者の考えについて互いに交流し合い、友だちの考えを聞くことにより、「平和のとりでを築く」についての考えを広げたり、深めたりする。

2 具体的な手立て

- ① 「戦争は人の心の中で生まれるものである」の意味について自分の考えを書く。 <一人学び>
- ② 「戦争は人の心の中で生まれるものである」の意味について話し合う。 <学び合い>
- ③ 「平和のとりでを築く」の意味について自分の考えを書く。 <一人学び>
- ④ 「平和のとりでを築く」の意味について話し合う。 <学び合い>

3 学び合いの展開 (③と④について)

T : 「戦争は人の心の中で生まれるものである」の意味については、学び合いで分かりましたね。戦争は相手を憎んだり、自分が相手を思うがままにしたいという自分勝手な思いからくるものだということが分かりました。だからこそ国連憲章には「人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と書いてあります。この「平和のとりでを築く」とはどのような意味でしょうか。書きましょう。

<一人学び>

T◎ : 「平和のとりでを築く」とはどのような意味でしょうか。書いたことをもとにして話し合いましょう。では、自分の考えを発表しましょう。<学び合い>

C1 : さっきの学び合いで、戦争が人の心の中で生まれる原因は、自分のわがままや相手を思うとおりにさせたいということだということが分かりました。人と人との関係についても全く同様で、自分の心の中に悪い心が出てきて喧嘩になるということも分かりました。だから、「平和のとりでを築く」とは、そのようなことにならないように、自分の心の周りにお城を作り、平和を守るということだと思います。

C2 : 私は、「悪い心から平和を守る」ための「とりで」だと思います。「戦争は人の心の中で生まれる」と教科書に書いてあったから、その悪い心から平和を守るのだと思います。

C3 : C1さんの意見を聞いて、「自分の心の周りに平和のお城を作る」意味について考えました。普通はお城は敵から自分を守る物だけれど、この場合の敵は自分の心の中にあるんだと思いました。戦争は自分の心の中の悪い心が原因で起こってしまうから自分の悪い気持ちを外へ出さないようにするために、心の中に平和のためのとりでが必要だということですね。

T : なるほど。では、筆者の一番伝えたい「原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ」とは、どのような意味でしょうか。

C4 : 原爆ドームは、世界中の人々が戦争を起こさないように自分の心にブレーキをかけるための遺産だと思います。理由は自分の心に生まれた悪い心を相手にぶつけて戦争を起こさないように、原爆ドームを見て「ああ、やっぱり戦争はいけないな。」と戦争を起こそうとするわがままな考え方をやめさせるための遺産だと思います。

C5 : 私は、「原爆ドームは、あのひどい戦争を忘れてしまうことから、世界の人々の記憶を守るための遺産なのだ」と思います。やはり、時間がたつと忘れてしまうと思うので、忘れないために、記憶に残すとりでなのだと思います。

C6 : 私は、世界の国同士がお互いに自分勝手なことを言って戦争を起こさないようにストップかけるためのとりでだと思います。昔の戦争がそうであったように、今も世界各地で国同士の争いがあります。これが戦争にならないように見守っているのが、原爆ドームだと思うからです。

T : そうですね。この原爆ドームの写真をみてください。原爆ドームは見る人の心の中に平和が築かれるんですね。そのため世界の遺産というわけです。



<ねらい> 「平和のとりでを築く」についての筆者の考えを読み取ることができる。